

## ベストクラス選定理由書

作成者：C 班（加納史章 江口真優 大呂優香 久松末樹）

科目名称      日本語の仕組みと言語教育(昼間クラス)		(担当教員名：菅 井 三 実 )
課 程：大学院（修士） 1年次	開講時期：前期・後期	
授業形態：講義	授業規模：31人	
インタビュー対象教員名      菅井三実 (実施日時：7月28日(金) 13時30分～14時；実施場所：総合研究棟3F小会議室 )		
インタビュー対象受講者名   岡田千鶴 松永梨沙 (実施日時：7月28日(金) 13時30分～14時；実施場所：総合研究棟3F小会議室 )		
<b>選定理由</b> 本授業は、現代日本語の日常的な側面から専門的な知見までを網羅し、学校教育の指導において、多角的視点を習得することができる授業といえる。また、授業評価とインタビューから理論と実践を繋げる授業展開であることが窺われ、大学院の本来の位置づけ、そして、受講生のニーズに応えたものであったと考えられる。 <b>【教員へのインタビュー】</b> 教員は、授業を展開するうえで〈出発点は日常の中にある〉という理念を掲げ、伝えたいことをどう教えるかは〈自由〉であるという。授業では〈実際に普段の生活で使われる言葉〉を題材とし、例文もできるだけ楽しいものを選び、表面的な現象だけでなく、その奥にある〈原理〉まで掘り下げていく。そして、受講生と対話を通して一緒に考えることで、国語専門だけでなく、他の研究領域や教職経験のない学生にも共感を得られたとのことであった。また、〈言語学〉という基礎研究の観点から、学校教育へのメッセージとして、教科書的な言語表現や無味乾燥の冷たい日本語ではなく、身の回りには面白い題材が溢れており、〈観察から始まる〉という経験科学に基づき、指導におけるサイクルを伝えたことが受講生には新鮮であったことも今回の評価に繋がっているのではないかと考える。 <b>【学生へのインタビュー】</b> 授業形式は全員参加型であり、打ち解けた雰囲気の中で、教員がすべてを解説するのではなく、受講生に問いかけ、率直な意見や質問を行えることが学びを深める良い機会となっている。また、教員による専門的な説明に加え、毎回異なる日常の具体例やユニークな用例、世代を問わない話題提供も魅力の一つであることが窺えた。さらに、受講生からの高評価のポイントとして、〈気づき〉〈発見〉〈刺激〉が挙げられる。授業を通して、国語の専門に限らず、いかに言葉を曖昧に使っていたのかを考えさせられ、理論を学ぶことで気づき、学校教育ではあまり深く追求しないところや例外に焦点を当たっていることで新たな発見ができたという。そして、現場に戻った際、自分が授業を行う上でのヒントや工夫、型にはめない視点の捉え方等、刺激の多い内容であったようである。 <b>【総括】</b> 本授業の総合評価は3.94ポイントであり、回答者24名という人数にしては高いといえる。自由記述欄も高評価の記載が多く、知識と内容が充実しており、具体性の高い授業であったことが推察される。また、教員の人柄や熱意に触れられていたことからこの授業の内実が評価されているようであった。そこで、授業評価の高さ、自由記述欄の具体性、インタビュー内容を勘案し、本授業をベストクラスに相応しいと結論した。		

